

「農業技術の匠」： さいとう たけみ 齋藤 武美 さん（ 福島県会津若松市 ）

～ 高齢者でも導入可能な農作業の工夫や機械の改良による負担軽減 ～



齋藤 武美さん

1 技術確立の背景（目的）

齋藤さんは、米、大豆をはじめ、トマトや伝統野菜、会津名物ソースカツ丼用キャベツなどの多品目野菜を有機で栽培しています。

しかし、その栽培には、健苗づくり、肥料や燻炭づくり、除草など、多くの手間や力を要します。そこで齋藤さんは、高齢者でも簡単に導入できる農作業の工夫や機械の改良により身体的な負担を軽減することで、こうした作業を楽しく行っています。

2 技術概要（技術効果）

その工夫は、手法や時期をかえた新たな作業の組み立て、廃材や中古部品を利用した機械や農具の改良など、発想をかえた簡単な方法で農作業の負担を軽減しています。

（1）作業の組み立て

- ① 簡単な作業で、平らな硬い育苗床づくり
- ② 移動しながら種播き、など

（2）機械の改良

- ① 乗用でも作業ができる歩行型溝切り機
- ② 重さが均等にかかる鎮圧ローラ、など

3 技術の地域への活用状況（普及状況）

会津地域では高齢化や過疎化に伴い、農家の高齢者率が上昇していて、農業従事者の身体的な負担が高まっています。

齋藤さんは、高齢の現在も、作業や機械を工夫して有機栽培を実践しています。その工夫は、農作業の負担軽減に効果的で、しかも、簡易であることから、高齢者にも取り入れやすい方法です。

会津方部水稻銘柄品種競作会入賞、県稲作経営者会議会長、会津有機米研究会会長の経歴を持つ齋藤さんの技術力と指導力のもと、農業者の負担が軽減され、地域農業の継続性が高まるものと考えられます。



自作レーキで楽々作業

※最寄りの普及指導センター { 福島県会津農林事務所農業振興普及部
住所：福島県会津若松市追手町7-5
TEL：0242-29-5307

<技術のポイント>

創意工夫で農作業の負担軽減

(1) ハウス床面づくり

① ねらい

苗箱運搬用トラックの出入りを楽にし、播種機のレール移動を可能とする硬く平らな苗床面を作るために代かきを応用して行う。農閑期に行うことで春作業の軽減につながる。

② 手順

ア 水たまりができる程度の水を入れる。

イ ロータリーで代かきする。

(大きな凹凸がなければ、代かきは省略可)

ウ 水たまりの加減を見ながら、手製レーキで地均しする。

(手製レーキは短時間で土寄せと均しが一度にできるように本数を増やし、また刃の形状を工夫した。)

エ 均平がとれれば来春まで放置し、土を固める。



代かき、地均し作業



上面の角度で土寄せ均し精度アップ

(2) 水稻播種作業

① ねらい

「人は動かず、機械を動かす」の発想で、重くきつい苗箱並べの負担を軽減。

② 手順

ア あらかじめ、培土や空箱を配っておく。

イ 苗箱を床に並べ終わったら、播種機を台車に乗せる。

ウ 播種機は滑車付きの台車にのせて、L字アングルで線路の様に敷いたレール軌道上を移動させる。作業後レールはプール育苗の縁に使用する。

エ 播種終了後、水を入れプールで育苗管理する。



無灌水のため、軽い。



凹凸なく平に並べられた苗箱

(3) その他の工夫

○ 歩行型溝切機を乗用に改良



自転車廃品利用で、乗用に改良した水田溝切機

○ 重さが均等にかかる鎮圧ローラー



塩ビ管の中に砂を入れ、両端に蓋をした手製ローラー。動かすと砂が広がり、均等の重さで鎮圧できる。